

SDGsを意識した総合的な学習の時間の取り組み ～3年間を見通したプログラムとテーマ別探究活動の充実～



【目的と活動】

本校では、総合的な学習の時間を中心に本学で推進するSDGsとのつながりやマルチステークホルダーとの連携・協働を生かした学習プログラムの提案、実施を促進し、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる生徒の育成に取り組んでいる。

学習プログラム開発においては、校内共通研究主題や教科指導の蓄積、「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」（国立教育政策研究所2012）、社会課題への関心を高める講座制授業（平和・福祉・国際・環境など）、3年間を見通したスパイラルな取り組み「インプット（第1学年）→ブレ探究（第2学年）→個人探究（第3学年）」、行政、NPO、外部・専門機関との連携などに留意している。各学年の取り組みは、前期末に学習成果発表会で全校生徒・教職員・保護者・地域および関係者とともに共有し、PDCAサイクルや「選択と集中」を意識したカリキュラムマネジメントを行う。

【期待される効果】

問いをもちながら学ぶこと、自ら考え・行動すること、繋がりを大切にするなど、持続可能な社会づくりに必要とされる資質・能力の涵養。

岡山大学教育学部附属中学校 校長 前田 潔、副校長 森安 史彦、
教諭・研究主任 竹島 潤、教諭・SDGs推進担当 三村 悠美子

3年間の学びを見通したテーマ別探究活動



地域やマルチステークホルダーとつながる平和教育 ～岡山空襲戦跡巡りとともに～



【目的と活動】

戦後70年以上が経過し、戦争の記憶を語り継ぎ、平和を自らの力で築き上げていこうとする青少年育成の必要性が高まっている。本校では、平和フィールドワークを通して、岡山空襲を追体験し、戦争の悲惨さや平和な暮らしのありがたさについて考える機会をもち、第3学年における沖縄平和学習へとつなげている。

各学年での活動は次の通り。

(第1学年) 玉井宮、大福寺、浄教寺、防空壕跡など附属学園近隣の戦跡巡り、岡山空襲展示室の資料を用いての学習を行う。

(第2学年) 蓮昌寺、岡山城石山門跡、金刀比羅神社、岡山神社など、岡山市内中心部の戦跡巡りや語り部講演会、学校図書館特設展示、デジタル紙芝居上映会などを行う。

(第3学年) 第1～2学年の学習をもとに、さまざまなゲスト講師とともに、沖縄戦や基地問題、安全保障など、幅広く平和について学ぶ。

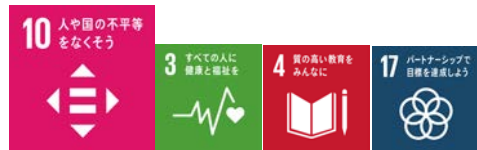
【期待される効果】

平和と公正を大切にした行動を主体的に取ろうとする生徒の育成、地域学習、戦争記憶の継承など。

岡山大学教育学部附属中学校校長 前田 潔、副校長 森安 史彦、
教諭 竹島 潤、三村 悠美子、三村 脩祐、米林 哲郎、岩田 和徳、渡邊 晶



「こころの病について学ぶ授業」の推進 ～当事者・メンタルヘルス教育団体との連携～



【目的と活動】

ストレス社会における「精神疾患」は、2013年に医療計画上の「5大疾病」に位置付けられ、その半数以上は20代前半までに発病することが知られている（厚生労働省）。本校では、統合失調症やうつ病などの当事者の方々と交流する学習プログラムを実施し、こころの不調や精神疾患についての知識を得ることで、病気を予防したり、自他の不調に気づき、周囲の人や相談機関などにSOSを発信したり、周囲に相談したりする力を育成するとともに、偏見・差別のない共生社会の実現を目指している。実施に当たっては、田淵泰子氏（精神保健福祉士・LIFE代表）、吉村優作医師（公益財団法人慈圭会慈圭病院）、佐藤光源医師（元日本精神神経学会理事長・東北大名誉教授）、当事者団体などとの連携協働を大切にし、次の内容で取り組んでいる。

- ・ 教員研修「メンタルヘルスリテラシー教育とは」
- ・ 指導案検討会
- ・ 専門講師による学年授業
- ・ 実行委主催の当事者交流会
- ・ 実行委員および関係者打合せ会
- ・ 学級担任による授業
- ・ 保健委員会による啓発運動

【期待される効果】

- ・ 偏見、差別を許さない人権意識の涵養
- ・ 生徒および教職員のメンタルヘルスリテラシー向上

岡山大学教育学部附属中学校校長 前田 潔、副校長 森安 史彦、
教諭 竹島 潤、三村 悠美子、奥田 陽一、川端 美穂、養護教諭 河本 華奈



多様な視点で推進するキャリア教育 ～岡山大学・地元企業・非営利セクターの現場へ～



【目的と活動】

本校では、いわゆる進路指導・職業教育のみならず「自らの力で生き方を選択していけるよう、必要な能力や態度を身に付けられる学習」として、3年間を通じて生徒のキャリア発達を支援することを目指したキャリア教育に取り組んでいる。岡山大学、地元企業、非営利セクターの3領域からなる、職場やフィールドの現場訪問を含むプログラムを通しての教育活動の工夫・改善を続けている。

令和元年度各学年の主な取り組みは次の通り。

(第1学年) 岡山大教育学部訪問

(第2学年) キャリアフィールド訪問

岡山大医・歯・薬・農・工・理・環境理工・法・経済学部

中国銀行・ベネッセコーポレーション・菅公学生服

おかやまコープ・廣榮堂・御菓子司みづゑ・岡山放送

岡山NPOセンター・NPOだっぴ・社会福祉法人恩賜財団済生会 他

(第3学年) 第1～2学年の学びを生かした進路指導

【期待される効果】

- ・ 自己のキャリア形成や社会変革への主体性
- ・ 多様な生き方の学び ・ 見通しをもった生き方

岡山大学教育学部附属中学校 校長 前田 潔、副校長 森安 史彦、
教諭 竹島 潤、三村 悠美子、山本 芳幸、米林 哲郎、横林 慎也、坪田 智行



多文化共生につながる英語・国際教育の実践 ～留学生やゲストとの交流を生かして～



【目的と活動】

本校の英語・国際教育では、さまざまな国出身の留学生と交流を伴う授業やプログラムを通して、世界には多様な国や文化があることを知り、グローバル社会に対する興味関心を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを大切にし、相手の文化を理解しようとする態度を養うことを目指している。また、*GIFT講演会では、講師に海外出身の方や海外経験のある方をお迎えし、グローバル社会における視野を豊かに広げる機会をつくっている。*岡山大附属中同窓会Green International Friendship Teachers 基金 (主な連携・交流先)

- ・岡山大学留学生 ・岡山理科大学グローバル教育センター
 - ・岡山外語学院留学生 ・JICA中国
 - ・岡山市プロモーションMICE課 ・NPO法人 ICOI
- (留学生・ゲストの出身国)

マレーシア、中国、カンボジア、モンゴル、トルコ、ケニア、イギリス、カナダ、ウガンダ、ドイツ など15カ国以上

【期待される効果】

- ・グローバル社会、国際協力、国際貢献についての学び
- ・英語コミュニケーション能力の向上 ・英語学習への意欲向上
- ・異文化間コミュニケーション力 ・郷土を愛する心

岡山大学教育学部附属中学校 校長 前田 潔、副校長 森安 史彦、
英語科・GIFT担当 邦子、奥田 陽一、梶山 和俊、竹島 潤

